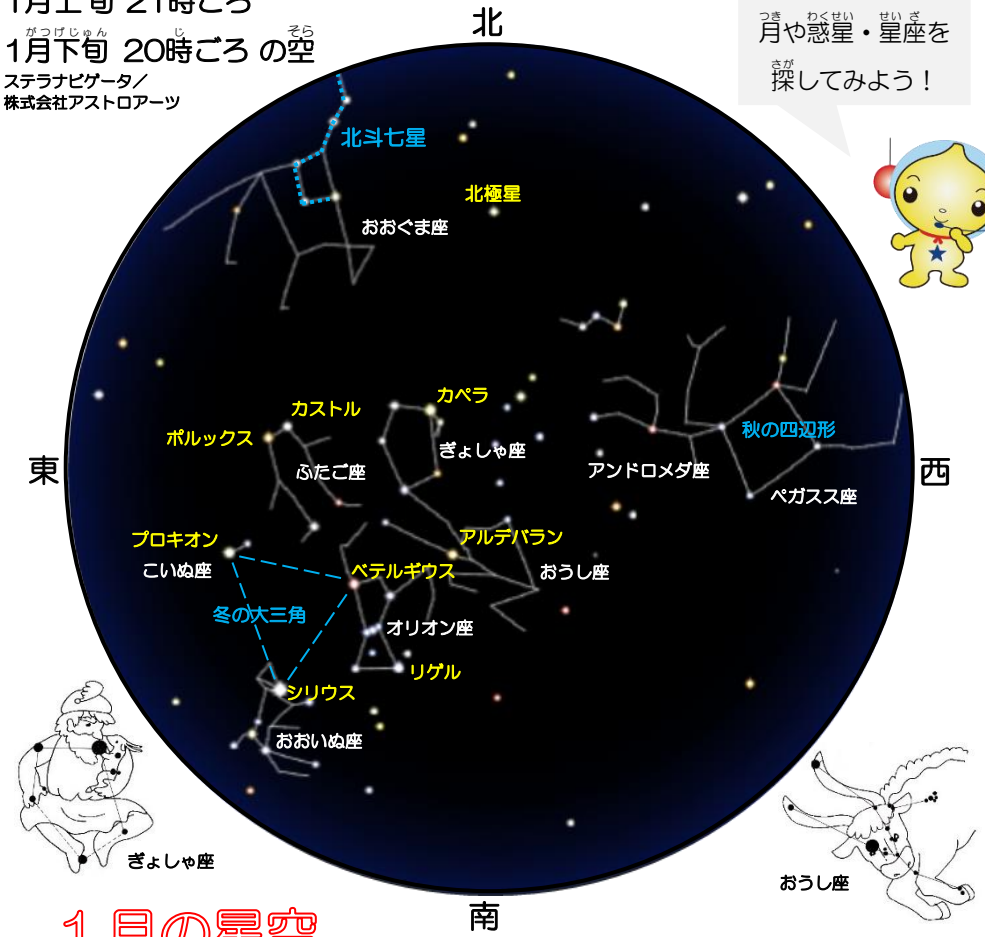
2022年

月刊 星空の散歩道 1月号

1月上旬 21時ごろ
1月下旬 20時ごろ の空

ステラナビゲータ／
株式会社アストロアーツ

月や惑星・星座を探してみよう！



1月の星空

☆宵空の主な星座と明るい星☆

西の空に秋の星座が見え、南と東の空に冬の星座が見える。

＜西＞	ペガスス座、アンドロメダ座
＜天頂＞	おうし座（アルデバラン）、ぎょしゃ座（カペラ）
＜南＞	オリオン座（ベテルギウス、リゲル）、おおいぬ座（シリウス）
＜東＞	ふたご座（カストル、ポルックス）、こいぬ座（プロキオン）
＜北＞	北極星、カシオペヤ座、おおぐま座

☆天文トピック☆

1月 4日 しぶんぎ座流星群が極大

三大流星群のひとつです。ピークは4日5～6時頃と予想されています。観察には4日の明け方が月明りもなく、おすすめです。

1月5～6日 月が土星・木星と並ぶ

夕方、西の空で細い月と土星・木星が並んで見えます。

1月13日 月とプレアデス星団が並ぶ

月を目印にプレアデス星団（すばる）を探してみましょう。

☆月の形の変化☆

1月 3日	新月	●
1月10日	上弦	◐
1月18日	満月	○
1月25日	下弦	◑

☆1月の惑星☆

木星…夕方、南西の空
土星…夕方、西の空低く
（上旬）

＜天文コラム＞ 世界初のブラックホール画像

©EHT Collaboration

これは2019年に公表されたブラックホールの世界初となる撮影画像です。「ブラックホール」はホール（穴）と名づけられていますが、太陽と同じ「恒星」の一生の最終段階に誕生する天体のひとつです。

恒星は宇宙空間にある水素ガスが大量に集まって誕生します。ガスが自分の重みで縮んでいくことで密度（体積あたりの重さ）が大きくなり、水素がヘリウムに変わる反応（核融合反応）をおこして恒星として光り輝きはじめます。太陽の30倍以上の重さをもつ恒星は、やがて、その一生の最後に大爆発を起こし、中心部がさらに縮んで、極端に密度の大きい（中身がつまり過ぎている）天体であるブラックホールになると考えられています。しかしながらブラックホールは、光（電磁波）さえも外に向かって出ることができないほど強い重力が働くため、その実物は長い間、発見できませんでした。

公表されたブラックホールでは、その周辺に明るく輝くガスが存在したことにより、姿をとらえることに成功したのです。

伊丹市立こども文化科学館 発行日 2021年12月20日
〒664-0839 兵庫県伊丹市桑津3丁目1-36 TEL：(072)784-1222
HP：http://business4.plala.or.jp/kodomo/